

# 我ら「久仁京介」頑張っている

人 熊 谷 三

三 谷 勲 人

先般新潟日報で紹介された記事です。

。ままのちごころもつめは半歳

新潟江南区出身・桜川たつる

## 新曲「哀愁おけさ」



「佐渡でも歌う機会があるといい」と話す  
桜川たつる（新潟市中央区）

## 佐渡の情景 思い浮かべ

新潟市江南区出身の演歌歌手桜川たつる(32)が、7年ぶりの新曲「哀愁おけさ」をリリースした。「佐渡の風景をイメージして歌った曲。幅広い世代に聞いてもらいたい」とアピールしている。

新曲の作曲は水森英夫、作詞は久仁京介(新潟市西区出身)が手がけた。別れた恋人への未練を募らせる女心を、晩秋の佐渡の風景に重ねて歌う。「軒先で干し柿が揺れている、佐渡の情景が浮かぶ曲。佐渡金山の世界遺産登録もあり、タイムリーな曲になった」と語る。

氷川きよし、山内恵介ら多くの演歌歌手が歌ってきた水森の曲を歌うことは念願だったという。悲恋を歌いつつも重くならないメロディー

が魅力で、「浪花節になりすぎず、さらっと歌うのがポイント」と言う。

桜川は2017年にデビューした7年前に比べ、心も歌声も落ち着いて安定してきた」と成長を感じている。路上ライブなど普段演歌を聞かない世代にも歌を届けたいと活動してきた。

レコード会社を夢レコードへと変え、心機一転。「今後は定期的に新曲を出して、歌う場を広げていきたい」と意気込んでいる。

カップリングには、久仁が書き下ろした「だつて愛だから」、カバー曲「呑も呑も！」を収めた。3曲入りで1000円。

新潟出身・桜川たつる・が「久仁京介」の作詞で「哀愁おけさ」をリリース。この歌手は以前「阿賀の里」でカラオケ大会のゲストとして歌ったのを見ている。丁度この大会に妻が参加、応援に入ったときを覚えています。

この歌手は地元では幅広く活躍しており、ご年配のお母様がたりにもてもてです。

今後久仁先生の活動により羽ばたくこととせしょう。

また最近の久仁先生の作詞で逢いたいあえない 歌手・七浦りかーが発売

これもカラオケ教室で教えられ、巷のスナックで大勢の伯母様方で歌われており大変評判が良いようです。

YouTube「作詞家久仁京介の世界」を見ると凄く頑張っている。

已年のごとく益々昇るのではないのでしょうか。この年で活躍を見ると我々もーなくちや〜

いま松崎くんから緊急連絡あり

3月10日「イタリア軒」で・歌手・なおみあき・桜川たつる・のリサイタル開催。ゲストとして作詞家・久仁京介が来るそうです。

この機会を利用して、別途懇親会を希望しているようです。そのときはよろしく。